

メディア科学リサーチセンター視聴覚コア客員教員プロジェクト活動報告

視聴覚コア客員教員プロジェクトでは同志社大学生命医科学部力丸裕教授を客員教授に迎えて、動物およびヒトの聴覚情報処理の基礎的機構に関する心理学的・生理学的・工学的研究を行っている。本年度の研究について以下に記す。

劣化雑音音声単語の了解度：隣接する単語間の関連度と時間パターンの影響

同志社大学生命医科学部 力丸 裕

本研究では、明瞭度の低い音声知覚精度を向上させる仕組み解明を目指し、劣化雑音音声から成る日本語単語（3~4 モーラ）の知覚測定を次のように行った。ヒント語とターゲット語を時間対にして呈示し、先行のヒント語が後続のターゲット語理解に及ぼす効果と、後続のヒント語が先行のターゲット語理解に及ぼす効果を比較した。さらに、単語間の関連度がターゲット語の了解度に及ぼす影響を検討し、先行・後続単語間の時間間隔（IOO）の影響についても検討した。実験の結果、関連語対の方が非関連語対より正答率が高く、ヒント語-ターゲット語（HT）の順番の方が TH の順番よりも正答率が高かった。このことから、劣化雑音音声の単語聴取において、関連度が単語了解度に影響を及ぼし、先行語から後続語への影響が、後続語から先行語への影響よりも大きいことがわかった。また、IOO は長い方(2s)が短い方(0.5s)よりも正答率が高くなった。すなわち、劣化雑音音声聴取において、ヒント語-ターゲット語の呈示順、ヒント語-ターゲット語の関連度、ヒント語-ターゲット語の時間間隔によって単語の了解度が変わることが分かった。